

平成21年 4月24日現在

研究種目：基盤研究 (A)
研究期間：2006～2009
課題番号：18251013
研究課題名 (和文) グローバル化する国内政策下の社会的少数者・弱者アイデンティティ構築プロセスの研究
研究課題名 (英文) Study of Identity Construction Process among Minorities under Globally Influenced Domestic Policies
研究代表者
氏名 (ローマ字)：武井 秀夫 (Takei Hideo)
所属機関・部局・職：千葉大学・文学部・教授
研究者番号：50226982

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：文化人類学、少数者研究、医療研究、開発研究

1. 研究計画の概要

本研究の目的は

- ① 国内政策の「グローバル化」という状況に対応して変動する社会的少数者・弱者のアイデンティティの構築／再構築の動的プロセスと、そこに関わってくる文化的、社会的、物質的、知的資源の意味と役割を明らかにし、多数者／少数者それぞれの生活世界の交錯によって織りなされる現実として社会的少数者・弱者問題をとらえ直すこと
- ② その方法論の一つとして被調査者との co-authorship の試みを追求すること
- ③ この co-authorship を成立させるプロセスを素材として、知識生産と専門知をめぐる知識生産者とその受け手との間のダイナミズムを探求することである。

2. 研究の進捗状況

本研究には、上記3つの研究課題があり、これをチリ、パナマ、ブラジルの3カ国において貧困者、障害者、先住民の調査から比較考察するものであるが、パナマにおける貧困者調査が治安等の問題から十分な調査が困難である点、また、貧困層における教育レベルの低さのために、貧困層で co-authorship を試みることの困難を除けば、順調に進捗していると考えられる

3. 現在までの達成度

- ②おおむね順調に進展している
[理由]

研究目的にあげた3課題別に見ると、①については、パナマのクナ人にとっての領土と自治権の維持に成功した歴史という文化的、社会的資源のもつ意味や、現在のマプチェ人にとっての民族医療という文化的、知的資源の意味、またチリの貧困層にとってのアルピジェーラと呼ばれる民芸品の持つ意味など、興味深い知見が得られている。②については、パナマのクナ人、チリのマプチェ人や障害者である人びとの中に co-authorship の試みへの参加を承諾した人びと、検討中の人びとがおり、電子媒体等を利用して意見交換を継続的に実施してきており、すでに達成の目途が立っている。③については、②のプロセスでの情報収集と分析を平行して継続中である。これらの成果は、その一部を、各研究者の所属する機関の紀要等に投稿すべくとりまとめ中である。

4. 今後の研究の推進方策

パナマの貧困地区調査は治安の悪化のため継続はほぼ不可能であり、また、貧困層での co-authorship の試みも実現が困難であるため、この2点については断念せざるを得ない。それ以外の課題については、今年度の調査継続によって所期の成果を達成できるものと考えるので、夏期を中心に現地調査を進め、成果を共有しとりまとめていくために、年度後半の共同研究会に力を入れる予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)